

都市再生整備計画 事後評価シート
清水・祇園地区

令和4年4月

京都府京都市

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	清水・祇園地区			面積	36.7ha				
交付期間	平成30年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	650.7百万円	国费率	0.471						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高質空間形成施設(石畳風舗装、景観型照明等)、地域生活基盤施設(観光案内標識)										
		提案事業	事業活用調査(交通量調査等)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(舗装整備(石畳舗装))	当該事業区域については、平成30年度末に歴史的風致維持向上計画における重点区域として位置づけられたため、本計画の交付期間内に整備を行うことで、整備方針である「回遊性の向上」をより一層、高めていくことを目的とし、整備計画(第1回変更)(平成31年1月)において追加した。		影響なし							
提案事業													
交付期間の変更	当初変更	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	歩行者の分散割合	%	36	H29	45	R3	41	△	あり	●	目標には達しなかったものの、数値は向上した。事業を実施することで、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができ、歩行者の面的分散に効果があったと考えられる。	なし
	指標2	交差点の歩行者流動割合	%	38	H29	50	R3	44	△	あり	●	目標には達しなかったものの、数値は向上した。事業を実施することで、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができ、交差点の歩行者の分散に効果があったと考えられる。	なし
	指標3	観光客のおもてなし度	%	15	H29	85	R3	77	△	あり	●	アンケート項目を平均した結果、目標は達成できなかったが、すべての項目において数値は大幅に向上し、このうち「周辺景観との調和」については85%となった。事業の実施により、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができ、観光客のおもてなしの向上に効果があったと考えられる。	なし
	指標4									あり			
指標5									あり				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	横断歩道通行者の割合	%	36	H28			50				横断歩道通行者を分散することで、混雑の緩和につながった。	なし
	その他の数値指標2	バス停の利用しやすさ	%	20	H28			80				バス停を利用しやすくなることで、混雑の緩和につながった。	なし
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	関連事業である安心・安全な東大路歩行空間創出事業の各取組に関する歩行者の意識調査や周辺の現場調査を実施し、取組に対する好意的な意見が多く見られたことや、取組が原因となる悪影響がないことを確認した。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	地域、学識、関係団体、行政機関が参画している「東大路歩行空間創出推進会議」において、情報共有や進捗状況の確認を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、必要に応じて情報共有を図る。				
	持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

清水・祇園地区(京都府京都市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
		単位: %						
地域住民と来訪者にとって安心・安全で快適な歩行空間の創出 ①回遊性の向上による観光客の分散(混雑の緩和) ②地域の取組等と連携した観光客のおもてなし	歩行者の分散割合	単位: %	36	H29	45	R3	41	R3
	交差点の歩行者流動割合	単位: %	38	H29	50	R3	44	R3
	観光客のおもてなし度	単位: %	15	H29	85	R3	77	R3



まちの課題の変化 歩道環境やバス待ち環境を改善するとともに、回遊性の向上や周辺景観と調和した道路とすることで、混雑を緩和し、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む) 引き続き、「東山交通対策研究会」や『東山「観光・交通・環境」協力会議』と連携し、ソフト対策を継続していくなど、安心・安全で快適な歩行空間の創出に取り組む。

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	舗装整備(石畳舗装)	-	-	323	L=0.4km	平成31年1月に関連事業から基幹事業に計画を変更	影響なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	観光案内標識	10	N=30基	10	N=27基	観光案内標識の数量変更	影響なし	●	
高質空間形成施設	石畳風舗装, 景観型照明等	380	A=7,500㎡ N=26基	311	A=5,930㎡ N=27基	石畳風舗装, 景観型照明の数量変更	影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	事後評価	達成度	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	歩行者の分散割合	%	-	-	36	H29	45	R3	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	●	41	事後評価	△		●
指標2	交差点の歩行者流動割合	%	-	-	38	H29	50	R3	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	●	44	事後評価	△		●
指標3	観光客のおもてなし度	%	-	-	15	H29	85	R3	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	●	77	事後評価	△		●
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	北側ルートを経由する道路上において石畳風舗装や景観型照明を整備するとともに、観光案内標識を充実することで、北側ルートを通行する歩行者の割合が増加したが、数値目標を達成できなかった。	R3年度は新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化から、清水寺へ向かう主要なルート(南側ルート)の歩行者数が基準年度と比較して約4割減少し、混雑が緩和した。今後も長期にわたり影響が続くと考えられる。
指標2	神幸道交差点を南行左折した先の道路上において石畳風舗装や景観型照明を整備するとともに、観光案内標識を充実することで、同交差点において南行左折する歩行者の割合が増加したが、数値目標を達成できなかった。	R3年度は新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化から、清水寺へ向かう主要なルート(南行直進)の歩行者数が基準年度と比較して約5割減少し、混雑が緩和した。今後も長期にわたり影響が続くと考えられる。
指標3	石畳風舗装や景観型照明を整備することにより既存石畳舗装とともに周辺景観と調和した魅力ある道路ネットワークを構築し、さらに、観光地をわかりやすく明示した観光案内標識を充実することで、観光客のおもてなし度が向上したが、数値目標を達成できなかった。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	横断歩道通行者の割合	%	清水道バス停(北行)に近接する交差点における、北側、南側横断歩道を横断する通行者のうち、南側を横断する割合			36	H28	モニタリング			関連事業である清水道バス停(北行)を一部移設することで、歩道の歩きやすさが改善されたかを確認するため。	
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の数値指標2	バス停の利用しやすさ	%	祇園バス停(南行)における、バス停を利用しやすいと感じる割合			20	H28	モニタリング			関連事業である祇園バス停(南行)付近の歩道を一部拡幅しバス待ち空間を確保することで、バス停の使いやすさが改善されたかを確認するため。	歩道を一部拡幅することで通行車両への影響が懸念されるため、バス停車に伴う後続車両への影響を調査する必要がある。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の数値指標3												

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

関連事業である安心・安全な東大路歩行空間創出事業の各取組に関する歩行者の意識調査や周辺の現場調査を実施し、取組に対する好意的な意見が多く見られたことや、取組が原因となる悪影響がないことを確認した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	なし	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地域、学識、関係団体、行政機関が参画している「東大路通歩行空間創出推進会議」において、情報共有や進捗状況の確認を行った。	予定どおり実施した	● 令和元年8月20日 取組の進捗状況の確認など 令和3年2月24日 取組の進捗状況の確認など 令和3年10月4日 取組結果や効果検証計画の確認など 令和3年度末 効果検証の結果報告など	引き続き、必要に応じて情報共有を図る。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した	なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
「安心・安全な東大路歩行空間創出事業」WG会議	都市計画局歩くまち京都推進室, 建設局建設企画部建設企画課, 道路建設部道路環境整備課, 自転車政策推進室, 土木管理部土木管理課, 土木管理部東部土木事務所, 産業観光局観光MICE推進室, 交通局自動車部運輸課, 東山区役所地域力推進室	令和3年5月24日 令和3年8月5日 令和3年12月24日	都市計画局歩くまち京都推進室 建設局建設企画部建設企画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別									
指標名									
種別	事業名・箇所名			指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業									
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3					
指標名		歩行者の分散割合			交差点の歩行者流動割合			観光客のおもてなし度					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路【舗装整備(石畳舗装)】	△	大幅な数値の向上は見られなかったものの、数値は向上した。事業を実施することで、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができ、歩行者の面的な分散に効果があったと考えられる。なお、清水寺へ向かう主要なルート(南側ルート)の歩行者が約4割減少し、混雑が緩和したことも、大幅な数値の向上が見られなかった要因の一つと考えられる。	Ⅲ	△	大幅な数値の向上は見られなかったものの、数値は向上した。事業を実施することで、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができ、交差点の歩行者の分散に効果があったと考えられる。なお、清水寺へ向かう主要なルート(南行直進)の歩行者が約5割減少し、混雑が緩和したことも、大幅な数値の向上が見られなかった要因の一つと考えられる。	Ⅲ	△	アンケート項目を平均した結果、目標は達成できなかったが、すべての項目において数値は大幅に向上し、このうち「周辺景観との調和」については85%となった。事業の実施により、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができ、観光客のおもてなし度の向上に効果があったと考えられる。	Ⅳ			
	地域生活基盤施設【観光案内標識】	△			△			△					
	高質空間形成施設【石畳風舗装、景観型照明等】	△			△			△					
提案事業													
関連事業	(市)安井経6号線(ねねの道)	△			△			△					
	安心・安全な東大路歩行空間創出事業	△			△			△					

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	今後も清水・祇園地区の状況を注視し、必要に応じて対策を検討するとともに、引き続き、「東山交通対策研究会」や『東山「観光・交通・環境」協力会議』と連携し、ソフト対策を継続していくなど、歩行者の分散に取り組む。	今後も清水・祇園地区の状況を注視し、必要に応じて対策を検討するとともに、引き続き、「東山交通対策研究会」や『東山「観光・交通・環境」協力会議』と連携し、ソフト対策を継続していくなど、歩行者の分散に取り組む。	今後も清水・祇園地区の状況を注視し、必要に応じて対策を検討するとともに、引き続き、「東山交通対策研究会」や『東山「観光・交通・環境」協力会議』と連携し、ソフト対策を継続していくなど、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしの向上に取り組む。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
「安心・安全な東大路歩行空間創出事業」WG会議	都市計画局歩くまち京都推進室, 建設局建設企画部建設企画課, 道路建設部道路環境整備課, 自転車政策推進室, 土木管理部土木管理課, 土木管理部東部土木事務所, 産業観光局観光MICE推進室, 交通局自動車部運輸課, 東山区役所地域力推進室	令和3年5月24日 令和3年8月5日 令和3年12月24日	都市計画局歩くまち京都推進室 建設局建設企画部建設企画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
○観光客の増加による混雑の緩和 ○観光客に対するおもてなしの充実	歩道環境やバス待ち環境を改善するとともに、回遊性の向上や周辺景観と調和した道路とすることで、混雑を緩和し、市民の方の快適性、観光客の方のおもてなしにつながる安心・安全な歩行空間を創出することができた。	なし	なし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	観光客の混雑緩和とおもてなしの充実	引き続き、「東山交通対策研究会」や『東山「観光・交通・環境」協力会議』と連携し、ソフト対策を継続していくなど、安心・安全で快適な歩行空間の創出に取り組む。	東山交通対策研究会の継続 東山「観光・交通・環境」協力会議の継続

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	歩行者の分散割合	%	36	H29	45	R3	確定 ●	41	△	あり	○	なし		
							見込み			なし				
指標2	交差点の歩行者流動割合	%	38	H29	50	R3	確定 ●	44	△	あり	○	なし		
							見込み			なし				
指標3	観光客のおもてなし度	%	15	H29	85	R3	確定 ●	77	△	あり	○	なし		
							見込み			なし				
指標4				H	H		確定			あり				
							見込み			なし				
指標5				H	H		確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標1	横断歩道通行者の割合	%	36	H28	/		確定 ●	50	/		あり		なし	
							見込み							
その他の数値指標2	バス停の利用しやすさ	%	20	H28	/		確定 ●	80	/		あり		なし	
							見込み							
その他の数値指標3					/		確定		/		あり			
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	地元代表、学識経験者、関係機関から構成する東大路通歩行空間創出推進会議において、取組内容組を議論することも数値の向上につながった。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元代表、学識経験者、関係機関など多様な視点から議論する。 ・数値目標の達成だけでなく、取組に対する利用者の意見を確認する。
	うまくいかなかった点	社会情勢の変化など予期できない外的な要因による影響などにより、目標を達成することができなかった一方、取組による数値の向上が見られるとともに、取組に対する好意的な意見が多く見られた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	東大路通歩行空間創出推進会議を定期的で開催することが取組の理解につながった。	住民参加の機会を確保する。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年1月27日～2月10日	令和4年1月27日～2月10日	担当課への郵便, FAX, 電子メールなど	都市計画局 歩くまち京 都推進室
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	京都府立大学教授, 名城大学教授, 京都女子大学教授, 京都大学教授	令和4年2月28日～3月10日	都市計画局 歩くまち京都推進室	既存機関を活用	東大路通歩行空間創出推進会議
その他の委員	地元代表(32名), 交通事業者(4名), 関係行政機関(14名)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	なし
	成果の評価	各評価指標の数値が向上しており, 取組において一定の効果が認められる。
	実施過程の評価	過去から地元住民や関係機関との情報共有を図りながら着実に実施している。
	効果発現要因の整理	なし
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である。
	その他	コロナ禍で観光客が減少している状況ではあるが, 取組に対して全体的に高い評価を得ている。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか, 委員会の確認	妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	なし
	フォローアップ	なし
	その他	清水・祇園地区以外においても, まちの活性化に向けた取組が必要ではないかとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か, 委員会の確認	妥当である。
その他	なし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画

きよみず ぎ おん ちく
清水・祇園地区

きょうとふ きょうとし
京都府 京都市
(第5回変更)

令和4年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	清水・祇園地区	面積	36.7 ha
計画期間	平成 30 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 令和 3 年度				

目標
 地域住民と来訪者にとって安心・安全で快適な歩行空間の創出
 ①回遊性の向上による観光客の分散(混雑の緩和)
 ②地域の取組等と連携した観光客のおもてなし

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 (現況)
 ○清水・祇園地区は、豊かな文化財や優れた庭園をもつ寺院・神社が多く集まり、四季を通じて多くの観光客が訪れる歴史と文化の薫る国際文化観光都市・京都を代表する地区である。
 ○平成28年の本市の観光客数は、5,522万人であり、3年連続で5,500万人を超えるとともに、観光客が最も多かった時期と、最も少なかった時期との差も平成15年の3.6倍から1.5倍と大きく縮小するなど一年を通じて多くの観光客が訪れている。
 ○観光客の急増に伴い特定の歩道やバス停が混雑しており、歩行者が安心・安全に通行することのできる空間となっていない。
 ○観光客の急増に伴い生活道路を通行する観光客も増加しており、騒音やゴミのポイ捨てなどによって地域の生活環境が低下している。
 ○一方で、平成32年(2020年)の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け観光客のさらなる増加が見込まれており、質の高いおもてなしで観光客を迎えるため地域ぐるみで受入環境整備が求められている。
 (経緯と背景)
 ○平成14年度から「地域住民や観光客が快適に利用できる道路の整備や交通渋滞の解消」などの地元要望を頂いており、平成16年から紅葉のピーク期に地元や警察等との連携のもと、臨時交通規制や市営駐車場の自家用車駐車不可等、「ソフト対策」中心の交通対策に取り組んできた。
 ○東山が抱える「環境」、「交通」、「観光」の課題解決に向け、寺社、企業、団体等が主体となった東山「観光・交通・環境」協力会議を平成17年9月に設立し、誘導員の配置や観光マップの作成などに取り組んでいる。
 ○誰もが安心して観光を楽しめるユニバーサルツーリズムのまちづくりを目指し、商店や観光施設等による「京都・東山観光おもてなし隊」を組織し、観光客にトイレや道案内等のおもてなしサービスを提供している。
 ○平成26年7月に京都市と京都府警察は、地域との協働の下、平成32年の東京オリンピック・パラリンピック等の開催を見据え、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」の協定を締結し、本地区においても「東山区版運動プログラム」を策定し、地域、事業者、行政が協働して、パトロールや美化活動などによる防犯やおもてなしの取組を進めている。
 ○本地区は「打ち水」や「門掃き」などの古くから受け継がれてきた文化が今も暮らしに溶け込んでいる地域であるとともに、京都への全面移転が決定している文化庁の「地域文化創生本部」が設置(平成29年4月)されたことにより、日本の「こころの創生」を牽引する「世界文化首都・京都」の実現に向け、京都の最大の強みである「文化力」を基軸としたまちづくりの機運が高まっている。
 ○上記のように多様な主体による取組を行っているが、歩行者の安心・安全な通行を確保するためには、これまで実施してきた「ソフト対策」だけでは限界があることから、「ハード整備」も併せて実施することの必要性が求められている。
 課題
 ○観光客の増加による混雑の緩和
 ○観光客に対するおもてなしの充実
 将来ビジョン(中長期)
 ○京都市基本計画(平成22年12月策定)において、「歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり」、「美しい京都の町並を形成していくための魅力あふれる道路空間の創出」を掲げている。
 ○実施計画 第2ステージ(平成28年3月策定)において、「安心・安全な歩行空間の創出」、「歴史都市・京都にふさわしい、良好な道路空間の創出」、「地域に根差した暮らしの文化を通じたまちづくりの推進」が掲げられている。
 ○東山区基本計画(平成23年3月策定)において、だれもが安心して快適に歩くことができる取組を進め、区民にとって「住みやすく、来訪者も「歩きたくなる」まちをつくることとしている。
 ○京都市歴史的風致維持向上計画(平成29年3月)(平成31年3月認定変更)において、「歴史都市・京都にふさわしい風情や品格のあるまちづくりの推進」、「人が主役の歩いて楽しいまちづくりの推進」を基本方針に掲げている。

目標を定量化する指標

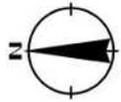
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
歩行者の分散割合	%	清水寺へつながる主要な観光ルート(清水寺周辺ルート[五条坂、松原通]、北側ルート[ねねの道、下河原通])のうち、北側ルートを通行する歩行者の割合	北側ルートを通行する歩行者割合の増加から、観光客が集中している清水寺周辺ルート[五条坂、松原通]から、北側ルート[ねねの道、下河原通]への歩行者の分散効果を把握	36%	H29	45%	R3
交差点の歩行者流動割合	%	神幸道交差点において東大路通を南行する歩行者数のうち、南行左折する歩行者の割合	南行左折する歩行者割合の増加から、歩行者の誘導効果を把握	38%	H29	50%	R3
観光客のおもてなし度	%	整備路線を通行する観光客を対象に、道路に関して「周辺景観との調和」、「観光ルートとしてのわかりやすさ」等をアンケート調査。各アンケート回答のうち、「そう思う」「少しそう思う」の回答割合の平均値を「おもてなし度」として設定。	おもてなし度の増加から、観光客のおもてなし効果を把握	15%	H29	85%	R3

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>①回遊性の向上による観光客の分散(混雑の緩和)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の石畳舗装等を活かすとともに、新たに石畳風舗装等を整備し魅力ある道路のネットワークを構築 石畳風舗装等と調和した景観型照明(電球色)の設置 石畳風舗装等と連携した観光案内標識の設置 <p>・石畳風舗装等の維持管理と面的な整備 ・地域が作成している観光マップとの連携</p>	<p>【基幹事業】高質空間形成施設:石畳風舗装、景観型照明等 【基幹事業】地域生活基盤施設:観光案内標識 【提案事業】事業活用調査費:事業効果分析(交通量調査等)</p> <p>【基幹事業】道路:舗装整備工事(石畳舗装) 【関連事業】安心・安全な東大路歩行空間創出事業(石畳風歩道舗装整備) 【関連事業】観光マップの広報の充実</p>
<p>②地域の取組等との連携による観光客のおもてなし</p> <ul style="list-style-type: none"> 石畳風保水性舗装の整備と打ち水等の暮らしの文化の連携 景観型照明(電球色)と花灯路等の地域のイベントとの灯りによる連携 観光案内標識の充実 <p>・石畳風舗装等の維持管理と面的な整備 ・地域が作成している観光マップとの連携</p>	<p>【基幹事業】高質空間形成施設:石畳風舗装、景観型照明等 【基幹事業】地域生活基盤施設【基幹事業】:観光案内標識 【提案事業】事業活用調査費:事業効果分析(アンケート調査)</p> <p>【基幹事業】道路:舗装整備工事(石畳舗装) 【関連事業】安心・安全な東大路歩行空間創出事業(石畳風歩道舗装整備) 【関連事業】観光マップの広報の充実</p>
<p>その他</p>	
<p>○まちづくりの目標の達成に向けた計画の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域、学識、関係団体、行政機関が参画している「東大路歩行空間創出推進会議」や「東山交通対策研究会」において情報共有や進捗状況の確認を行う。 <p>○事業終了後の住民等によるまちづくりの体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 東山「観光・交通・環境」協力会議、京都・東山観光おもてなし隊、世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動等、地域による継続的なまちづくり活動 	

都市再生整備計画の区域

清水・祇園地区(京都府京都市)	面積	36.7 ha	区域	東山区八坂上町, 清水4丁目の全部と祇園町南側, 下河原町の一部 他地内
-----------------	----	---------	----	--------------------------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



- 歴史的風致維持向上計画重点区域
A = 2,468ha
(歴史的市街地地区)
- 都市再生整備計画区域
A = 36.7ha
(清水・祇園地区)

凡 例	
	第一種低層住居専用地域
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域
	地区計画区域
	特別用途地区
	高度利用地区
	特定街区

※着色のない区域は市街化調整区域

- 歴史的風致維持向上計画重点区域
- 都市再生整備計画区域

